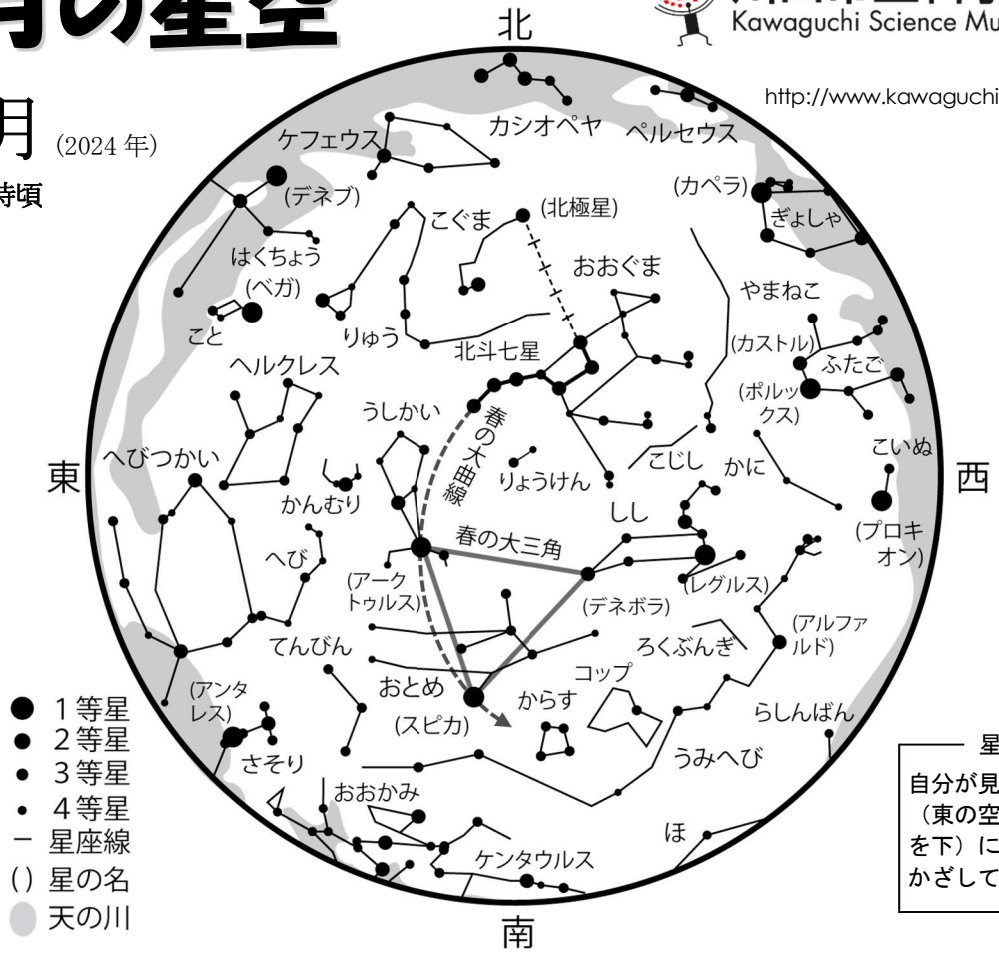
今月の星空

川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum
tel 048(262)8431
http://www.kawaguchi.science.museum/

5 月 (2024 年)

中旬 21 時頃



星図の見方

自分が見ている方角を下（東の空を見るときは東を下）にして、頭の上にかざして見ます。

月　　齢　◑下弦 1 日・31 日、● 新月 8 日、◐上弦 15 日、○ 満月 23 日

惑星情報　火星 日の出前 東（うお→くじら→うお座 1 等）　土星 日の出前 南東（みずがめ座 1 等）

☆GW（ゴールデンウィーク）は夜明け前にも注目～細い月と惑星、流星群の共演～

この頃、夜明け前の東の低空には、みずがめ座（秋の星座）とともに土星や火星が昇ってきます。特に 4 日・5 日は、細い月がそれぞれ土星・火星に近づきます。午前 3 時半頃を目安に東の空が開けた場所で探してみましょう。加えて、「みずがめ座η（エータ）流星群」が 6 日午前 6 時頃に極大を迎えます。夜中にようやく放射点が昇るため、観測に適した時間は短く、流星数は控えめですが、空の暗い場所では、5 日・6 日の午前 3 時台（空が白み始める前）は比較的多くの流星が観測できるかもしれません。

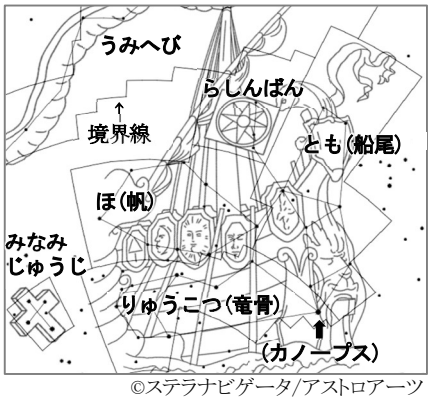
☆「春の大曲線」と大きさトップ 3 星座

宵の星空を見上げると、明るい星はまばらですが、空を覆うような大きな星座を見つけられます。そんな春の星座探しは、ひしゃくの形が目印の「北斗七星」から始めましょう。ひしゃくの「柄（え）」の並びのカーブを延ばしていくと、うしかい座の「アークトゥルス」、おとめ座の「スピカ」を通り、からす座にたどり着きます。北から南まで空を縦断するようなこのカーブを「春の大曲線」と呼んでいます。

さて、春の星座には、全 88 星座中、大きな星座トップ 3 が揃っています。1 位は、うみへび座で 1,303（単位は平方度、以下同じ）、2 位はおとめ座（1,294）、3 位はおおぐま座（1,280）です※。一方、最も小さな星座は、みなみじゅうじ座（68）です。

※1928 年に星座の境界線が定義されたことで各星座の大きさが決まった。

まぼろしの巨大星座 …かつては、うみへび座よりも大きなアルゴ（船）座が存在していました。現在の 88 星座が定義される際に、アルゴ船のモチーフはそのままに、船のパーツに分割されました。かつてのアルゴ座の場所には、りゅうこつ（竜骨）座、とも（船尾）座、ほ（帆）座、らしんばん座（※元々ほばしら座があった）が割り当てられ、4 星座を足し合わせた大きさは 1,888 平方度です。同様に、分割されていますが一連または一つの星座絵で描かれているものは、うしかい座＋りょうけん座（計 1,372）やへびつかい座＋へび座（計 1,585）等があります。



©ステラナビゲータ/アストロアーツ

分割されたアルゴ（船）座